

## エキナセア *Echinacea purpurea* の切花栽培 (暫定版 2019-2020 年)

キク科ムラサキバレン属

北アメリカ原産の多年草で丈夫で育てやすい。筒状花と舌状花があり、舌状花は開花が進むと下垂する。筒状花の花弁が長いものはポンポン状の花冠となり美しい。花壇材料として、切花として利用される。

### 適地

数年の据え置き栽培を想定。耕土が深いところのほうが無理なく健全に育てやすい。排水には十分に留意する。

露地、ハウスとも可能。切花栽培の場合はハウスのほうが丈が伸びやすい。露地との併用により出荷期を長く出来る可能性があり、組み合わせでの作付けも面白い。

### 施肥

肥料を多くすると大きく繁茂するが茎が軟弱になる場合があるので注意する。

施肥例) 窒素：リン酸：カリ＝5：2：5 kg/10a

EC 値が 0.3 以上ある場合、基肥は使わず生育を見ながら追肥する。

### 苗の取りあつかい

8 4 穴プラグの場合、入荷から定植まで 2 週間以内であればそのまま管理、それ以上長く置く場合は 7.5～9.0 cmポットに移植する。

### 定植

例) 25 cm・3 目ネット使用で両側マスに全植え。 条間 50cm×株間 25 cm  
20 cm・4～5 目ネット使用 条間 40～50 cm・2 条植え 株間 40 cm

### 管理

1 年目、初めに抽台してくる花茎の天花を摘む、または摘心を行って側枝を切花とする。摘心後は地際からの出芽も増えて株が大きくなる。

### 収穫・出荷

収穫は花首（茎）がしっかりしていることが条件となる。早すぎると水揚げ不良や茎折れを助長する。筒状花が周縁より開く。中心部に蕾が 0.5～1.0 cm くらい残ったくらいが目安。開花が進むにつれて最も外側の舌状花が下垂してくる。舌状花もつけての出荷を狙う場合は、間延びさせずしっかりと花茎を作ることが重要。

品種差もあるが、開花期間はかなり長く 2 年目では 6 月頃～10 月頃まで。ハウス栽培では暖房や電照の利用でさらに長期の開花・出荷が期待出来る。

### 病害虫

ウドンコ病に注意。 ※情報収集中